

50 我が街、船橋を歩く 船橋の魅力 (21)

—戊辰戦争「市川・船橋戦争(2)」—

29期 仲田 元昭

戊辰戦争の「市川・船橋戦争」の2回目、残念ですが船橋の文化財・古文書等の多くが焼失し、史実確認が困難になる大損失の市街戦になってしまった模様をご案内します。

1, 市川・船橋戦争(市街戦)

新政府軍の宮崎 砂土原藩は、馬込と夏見にいた撤兵隊との戦いに勝利し、11 時頃船橋宿に突入しました。

撤兵隊が陣を構えていた船橋大神宮は、新政府軍の最新の大砲で砲弾を撃ち込まれ家康が造営した大神宮と秀忠が造営した常磐神社等々が炎上し、街にも4ヶ所に火を放され、撃ち合い斬り合いの市街戦になり、船橋では多くの文化財・



「市川・船橋戦争を想定した下総・船橋方面の絵図 慶応4年(1868) 国立歴史民俗博物館所蔵に加筆」

古文書・過去帳・寺院や大半の民家(783軒)が焼失してしまいました。

2, 新政府兵、撤兵隊の墓所

船橋の戦いで、残念ながら双方併せ数十名が戦死しましたが、新政府兵の墓所は、海神念仏堂、馬込の安立庵墓所等3ヶ所に、撤兵隊の墓は東光寺、慈雲寺、了源寺、海神念仏堂、旭町共同墓地等7ヶ所に埋葬されています。

新政府兵の墓所は千葉県により手厚く埋葬されましたが、撤兵隊は、賊徒とのことで歴史より抹殺された武士達ですが、地元の方からは脱走(だっそ)様と呼ばれ悼み憐れんで、簡素ながらも温かく地元の方の墓の近くに埋葬されています。

3, 歴史文化的大損失の戦いに

この市街戦で新政府兵が街に4ヶ所火を放ったため、貴重な江戸時代の建造物や多くの古文書が焼失してしまいました。船橋大神宮で残ったのは、戦いの前に持ち出した、家康公からの寄進状 東照大権現像、常磐箱のみですが、焼けたご神木の古木(櫻の木)の根よりその後芽を出し、今では10m程に成長し唯一生き延びています。

しかし、貴重な史料(古文書・過去帳他)の多くが焼失し、古墳時代(7世紀頃)までの埋蔵遺跡確認以降、江戸時代までの約12世紀間の史実確認が難しくなったことは、船橋にとって歴史文化的損失の大きな戦いとなってしまいました。



「海神念仏堂の脱走方(旧幕府)と薩州兵(新政府)の墓碑」

150回忌に当たる平成28年に新政府兵4名と旧幕府兵1名の合葬墓が新規に建てられました。旧幕府兵と新政府兵の合葬墓は、ここ海神念仏堂の墓が初めてです。

(参考図書: 船橋市郷土資料室資料、平成27年「ふなばしお散歩マップ」他)

「51 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(22)に続く」「2025-1-5 寄稿」